

1 研究テーマ

主体的に表現し、伝え合う児童の育成
 ～表現力を高め、「主体的・対話的で深い学び」につなげる指導法の工夫～

2 主題設定の理由

本校では、2018年度から、学力向上プランと学校課題を融合させ、テーマに迫る指導法の工夫を研究してきたことにより、成果を収めるとともに、課題も明確になってきた。

今年度も、学力向上プランとの融合を図り、表現力を更に伸ばすための指導法に重点を置きながら、新しい学力観に基づいた学び方に関する研究をさらに推し進める必要があると考える。そして、質の高い表現を生むためには、土台となる国語科の〔思考力、判断力、表現力等の内容における3領域〕「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」、「C 読むこと」の向上が不可欠である。そこで、今年度も、表現力のボトムアップを図るべく、国語科を中心に研究を進めることとした。

表現力を高めるに当たっては、単に「書くこと」の技能だけでなく、「対話的で深い学び」に繋げられるような表現力の向上を目指していきたい。そのためには、「対話的な学び」を実現し、自分と他者の意見や考え方を比較したり、自分だけでは気付くことが難しい気付きを得たりしながら、自分の考えを形成できるような指導法の研究も推し進めていく必要がある。

3 目指す児童像

主体的に表現し、伝え合う児童

◎今年度重点項目

- ◎ 目指す姿1 自分の考えをもつことができる子 主
 - ・書くのが苦手でも話せる。 ・話すのが苦手でも書ける。 など
- ◇ 目指す姿2 課題に対して見通しを持ち、粘り強く取り組める子 主
- ◇ 目指す姿3 他者の考えを基に、自分の考えを広げ深めることができる子 対
- ◇ 目指す姿4 見方や考え方を深めながら、自分の考えを作り上げている子 深

※ 主…主体的な学び 対…対話的な学び 深…深い学び

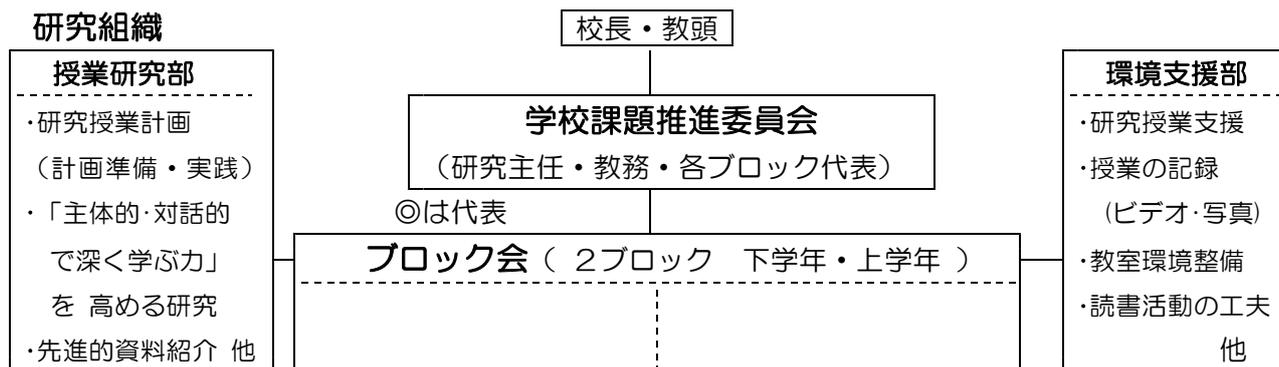
4 研究の方針・仮説（別紙）

5 研究方法

- ①学力向上プランとの融合を図り、「主体的・対話的で深い学び」の土台となる国語の基礎学力を伸ばす方策を研究する。
- ②根拠を基に自分の考えを書く活動が行えるよう、思考の場を盛り込んだ単元計画を立案する。
- ③「対話的な学習」を充実させ、学びが深まる授業の方策を研究する。
- ④家庭と連携を図りながら、自主学習を中心とした家庭学習の充実に向けた取り組みを推進していく。
- ⑤授業研究の推進を図るため、下学年・上学年の2ブロックに分かれ、ブロックごとに授業研究を行い、全体に授業提案する。提案された授業について検証し、成果と課題を共有する。

6 研究内容（別紙）

7 研究組織



8 研究の予定

月	日	曜	項目	主な内容
4	4	木	学校課題	・学校課題のテーマや内容等の確認 ・学力向上改善レポートR5の確認
	17	水	学校課題	・研究授業の割り振りと組織作り
	18	木	教育調査	・全国学調（国算）6年（質問紙4／24水） ・とちぎっ子（国算理）45年（質問紙5／1水）
5	14	火	教育調査	・NRT学力調査（国算）4年
6	10	月		・家庭学習強化週間（～14金）
	19	水	学校課題&学力向上Co研修1	・教室訪問 ・事業説明の講話
7				・全国学調・とちぎっ子の結果分析
8	5	月	学校課題&学力向上Co研修2	・全国学調・とちぎっ子の結果分析 ・学力向上改善プランR6の作成
	20	火	学校課題	・指導案検討
9	2	月		・家庭学習強化週間（～6金）
	18	水	学校課題	・指導案検討
10	23	水	学校課題	・指導案検討
11			校内アンケート	・学校課題・学力向上改善プランの進捗確認
	20	水	学校課題&学力向上Co研修3	・授業研究会
12	2	月		・家庭学習強化週間（～6金）
	4	水	小中一貫	
1	22	水	学校課題&学力向上Co研修4	・CRT学力調査の結果分析・本年度の学校課題のまとめ ・学力向上改善レポートの確認・次年度の学校課題について
	23	木	教育調査	・CRT学力調査（国算）1～6年（34年は理科も）
	24	金		
2	10	月		・家庭学習強化週間（～14金）
	19	水	学校課題	・次年度の学校課題計画の立案

4 研究の方針・仮説

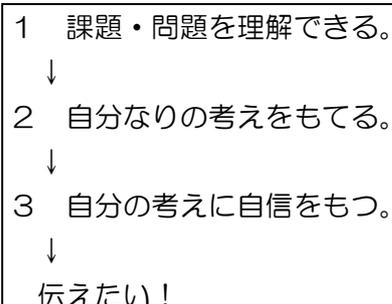
昨年度までの研究で得られた成果を生かしながら、土台となる国語の基礎学力を高めるための指導法を工夫していく。そうすることで、表現力を高め、「主体的・対話的で深い学び」ができる子どもを育てる。

児童が、主体的に表現できるときの思考の流れを、右図のように仮定する。

国語科の授業を行うに当たって、1～3のいずれかの段階に重点を置いた指導の工夫を行う。教員同士、互いの授業を見せ合い、見合うことを積み重ねていくを通して、各領域（A話す・聞く，B書く，C読む）の指導における成果と課題を共有し、授業改善につなげる。

その中で、目指す児童像である、「主体的に表現し、伝え合う児童」の姿が現れているか検証する。

1～3の各段階を成立させる要因を考えてみると、



1 課題・問題を理解できる。

ア 課題や問題が自分事になり、楽しそう・やってみたい・考えてみたいと思える工夫をする。

- ・めあてを児童と共有する。
- ・児童の身の回り（既習の学習内容を含む）にあり、必要感があるように
- ・児童が解決できそうだと感じられるように

2 自分なりの考えをもてる。

ア 考えの根拠となる情報を理解できるための工夫。（国語では、「言葉」を手掛かりに）

イ 自分なりの考えを、表している・表そうとしている姿を認める。

- ・書くのが苦手でも話す・話そうとしている。
- ・話すのが苦手でも書ける・書こうとしている。 などの姿

3 自分の考えに自信をもつ。→伝えたい！

他者との交流（ICTの活用を含む）を通して、

ア 互いの考えをつなぎ、みんなで、考えをまとめる。

イ 自分の考えと比べて、自信をもったり、直したりすることができる。

国語科の領域については、絞らない。

6 研究の内容

主体的に表現し、伝え合う児童の育成

表現力を高め、「主体的・対話的で深く学ぶ力」を伸ばす指導法の工夫

◎今年度重点項目

授業改善（学力向上プランとの融合）

【子どもの学ぶ意欲】

- ◎学習課題に、より興味をもてるよう「めあて」の提示を工夫し、「まとめ」から「振り返り」までの授業の流れを明確にした授業を展開する。
- 児童の実態に合った学習内容の単元観をもち、意欲的に取り組めるような課題設定の工夫を行う。
* 課題設定の工夫（興味・関心を引く課題・実生活と関連のある課題・解決する必要性のある課題など）

【学習習慣】

- ◎「めあて」に沿った「振り返り」を行い、ノートに自分の考えを書く。
- ◎話し方、聞き方の徹底（授業・生活）
 - ・理由づけ、相手意識、自分の意見との比較（授業・生活）
- ◎音読（教科書）（授業）
 - ・朝の読書と図書の実践および活用。ボランティアによる読み聞かせ
- 考えた道筋がわかるノート作り（高学年は聞いたこともメモする）（授業）
- 立腰（学習に取り組む姿勢・構えをつくる）
- 朝の会での1分間スピーチ（個人）
- 各委員会主催の集会参加と行事や発表後の振り返り
- 3年以上の国語辞典活用（授業）

【教師の指導力】

- ◎国語科において、自分の考えを明確にし、書き表し方が工夫できるよう指導
 - * 低学年：語と語や文と文との続き方に注意しながら内容のまとまりが分かるように
 - * 中学年：自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして
 - * 高学年：事実と感想、意見とを区別して引用したり、図表やグラフなどを用いたりして
- ◎各教科の授業の中で、思考の場を設け、根拠を基に自分の考えを書く活動を意図的に取り入れていく。
- 学力の上位・下位それぞれに配慮した授業の工夫と、意図的・計画的な学び合いの場の設定を行う。
- 意欲的に学習に取り組めるよう、教材・教具を工夫する。
 - ・学び合いの場として学習形態の工夫（個→ペア→グループ→全体）
 - ・児童用タブレットによる情報収集
 - ・具体物、半具体物、ICT活用、学習掲示物、発表ボード、ワークシートなど

【保護者の理解・協力】

- ◎自主学習を中心とした家庭学習の奨励を積極的に進める。
 - * 一斉同一型（ドリル学習）と自由選択型をバランスよく
- 年度初めに家庭学習の手引きを保護者に発行し、保護者への啓発を図る。
- 学期ごとに「家庭学習強化週間」を設定し、親子で家庭学習に取り組む機会を持つ。
- 懇談会の持ち方を工夫し、保護者同士で家庭での学習の様子を話し合えるようにする。

安心して学習のできる教師と児童・児童と児童との人間関係づくり